かしこ暮らしっく
長岡京

2021年
勝龍寺城は
築城450年！

しまっていた歴史を
着実に未来へ

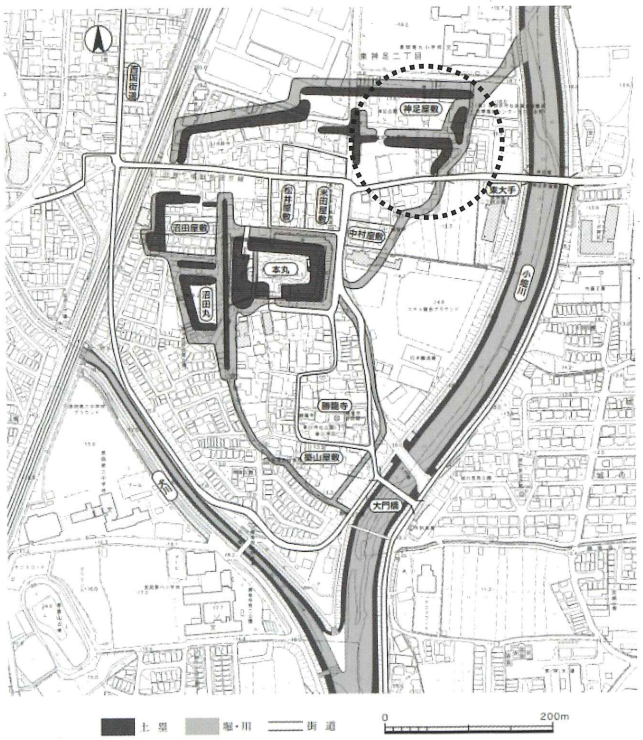
勝龍寺城
どるい
からぼりあと

2021年2月1日、勝龍寺城土塁・空堀跡を
長岡京市指定文化財（史跡）に指定しました。

長岡京市教育委員会

勝龍寺城 どるい からぼりあと

2021年2月1日、勝龍寺城土塁・空堀跡を長岡京市指定文化財（史跡）に指定しました。



勝龍寺城縄張想定復原図

遊歩道が整備された東西土塁です。東西に約50m、堀の底からの高さは6mが残っています。土塁の西端は、南北方向の土塁とも連結され、複雑な構造になっていました。空堀は、土塁に沿って掘られ、東西土塁の東側約20mのところには、土橋が架けられていました。城外から攻めてくる敵は、深い堀と高い土塁に囲まれ、この土橋を渡って虎口（城の入口）から侵入するしかなく、この土橋に敵を集中させ、横から狙って効果的に攻撃することで敵が簡単に城に入れないようなしくみ（横矢掛かり）になっていることがわかります。

長岡京市役所と長岡京ガラシャ祭の公式ホームページ、公式 YouTube チャンネルで、勝龍寺城に関する解説動画や講演動画をアップしています。ぜひ、ご覧ください！

【お問い合わせ】
長岡京市教育委員会生涯学習課
075-954-3557

「勝龍寺城土塁・空堀跡」はどこにあるの？

「勝龍寺城土塁・空堀跡」は、JR長岡京駅の南東約400m、勝竜寺公園（勝龍寺城主郭跡）から北東約200mの神足神社周辺にあります。以前は竹藪に覆われていましたが、平成27年に遊歩道を設けた「神足（土塁）公園」として整備されています。実際に土塁の上に立って、細川藤孝時代の勝龍寺城の風格を体感してみてください。

土塁・空堀ってなに？

城内への敵の侵入を防ぐためにつくられたのが、堀や土塁です。一般的に堀といえば、城を囲む水堀をイメージされますが、昔は水のない空堀が主流でした。江戸時代に書かれた『綿考輯録』には、城外に二重の堀を設け、さらに土塁を築いたとされており、軍事的にも防御性の高い城郭となっていたことがわかります。

いつだれがつくったの？

「勝龍寺城」は、今から450年前の元亀2年（1571）に、城主・細川藤孝が京都南西の拠点的城郭として大規模に改修・築城しました。当時の『信長朱印状』によると、改修・築城にあたっては、桂川西側の各家から1人ずつ集めて工事作業をすることを織田信長が許可をし、信長の同意と援助のもとで実施されました。

ここがポイント！藤孝の城づくり ①神足城を利用して改修・築城！

資料調査などから、藤孝が大規模に改修・築城したときに、現在の神足神社周辺にすでに存在していた神足城跡の土塁や堀を利用したのではと注目されてきました。公園整備にあたっての発掘調査で、現存する土塁の下から埋め戻された土塁跡が見つかり、やはり神足城跡の堀跡ではないかと考えられています。

ここがポイント！藤孝の城づくり ②北側を強化して城の弱点を克服！

勝龍寺城は、西国街道や久我畷といった幹線道路に接した交通の要衝に立地し、戦国時代を通じて戦略上の重要拠点であったことがわかっています。しかしながら、現在でも JR 長岡京駅周辺から勝竜寺城公園（勝龍寺城主郭跡）に向かって緩やかに低くなっている地形からもわかるように、本丸は北側からの攻撃には課題がありました。それを克服するために土塁・空堀が築造されたものと考えられており、現存するきわめて貴重な遺構となっています。

交通案内

【電車】
- JR長岡京駅（東口）から南へ徒歩約10分

【車】
- 名神高速道路 大山崎ICから約6分
- 京都縦貫自動車道 長岡京ICから約6分

※駐車場台数はわずかです。
周辺駐車場をご利用ください。